

荒木貞夫に関する文献（海外からの問合せ）

[回答]

次の諸カテゴリーに分類して紹介します。文末のカッコ内は当館の請求記号です。

1. 荒木貞夫関係文書
2. 荒木貞夫の伝記（荒木自身の回想記も含む）
3. 荒木貞夫の著作
4. 荒木貞夫関係、極東国際軍事裁判記録類
5. 主な政治家・軍人の日記類に現われる荒木貞夫
6. 主な軍事史関係図書に現われる荒木貞夫

1. 荒木貞夫関係文書

故荒木貞夫自身が所蔵していた荒木貞夫関係文書は、荒木の嗣子荒木貞彦氏および極東裁判の際の荒木被告の弁護人であった弁護士菅原裕氏が所蔵しているといわれています。しかし、その何れの場合も公開されていません。したがって、これを利用することは、現段階では不可能です。しかし、そのうちで重要と思われるものは、すでに、伝記あるいは軍事史家等の著作に引用されていますので間接的に利用することは可能です。

2. 荒木貞夫の伝記（荒木自身の回想記も含む）

(イ) 原田高一 巨星荒木陸相を語る

三友社出版部 昭和8 122p

(当館所蔵なし)

(ロ) 佐々弘雄 続人物春秋

改造社 昭和10 28~36p（荒木貞夫論）
(639-127)

(ハ) 松下芳男 荒木貞夫と阿部信行

今日の問題社 昭10（当館所蔵なし）

(ニ) 三島昭治 国内の防共戦線の三巨頭、
塩野・末次・荒木

国民政治経済研究所 昭和13

(当館所蔵なし)

(ホ) 唐島基智三 宇垣一成と荒木貞夫

第百書房 昭和13（当館所蔵なし）

(ヘ) 橋川学 秘録陸軍裏面史・将軍荒木の
七十年 上巻

大和書房 昭和29 412p

(289.1-A722Kh)

(ト) 橋川学 嵐と闘ふ哲将荒木

荒木貞夫将軍伝記編纂刊行会 昭和30
572p

(289.1-A722Ka)

(ト)は(ヘ)の下巻に相当するもの。著者は、約30年間荒木と直接の交渉あった元朝日新聞記者で、荒木のまとまった伝記としては唯一のもの。(ヘ)は荒木の出生から大佐当時まで、(ト)は主に昭和期の荒木を扱う。重要な秘資料、その他当時の新聞・雑誌等の資料に基づいて執筆されている。

(チ) 荒木貞夫 風雪の三十年 「時事新報
(夕刊)連載記事(1955年9月22日号~10
月23日号)30回分

(当館「新聞切抜資料室」人名ファイル
“Araki Sadao”)

(チ)は、主に昭和6年の三年事件頃から9年の陸相辞任までの期間を扱い、その間に起きた諸事件に対する荒木の対処の仕方、政治家、軍人との交渉の経緯などが語られている。

(リ) 荒木貞夫談話記録 昭和30年12月23日
採集

満蒙同胞援護会所蔵（当館所蔵なし）

(ロ) 荒木貞夫談話記録 対談者・岩淵辰雄
山浦貫一氏所蔵（当館所蔵なし）

3. 荒木貞夫の著作

(イ) 荒木貞夫編 醒めよ

国際問題研究会 大正12 75p

(510-30)

この図書の表紙・奥付等には荒木貞夫編とはなっていないが、前掲橋川著の(2-へ)によれば、この図書は荒木の参謀本部第1課長時代に、参謀本部第2部員の職員の収集した資料に基づいて荒木が編さんしたもので、第1次世界大戦後の列国の国防情況の分析と、それへの日本の対処の仕方を述べている。冒頭と結論部分は荒木自身の執筆になる。

(ロ) 荒木貞夫 昭和日本の使命

社会教育協会 昭和7 (民衆文庫・第60篇) (当館不明本・調査中)

(ハ) 荒木貞夫 全日本国民に告ぐ

大道書院 昭和8

(当館不明本・調査中)

(ニ) 荒木貞夫 皇軍の軍人精神

朝風社 昭和8 78p (625-234)

荒木の思想体系を知る上では、もっとも基本的な著作。明治15年発布の軍人勅諭に依拠しつつ、著者の日本軍人精神に対する考え方をまとめている。内容は次の10章からなる。

①建国の精神と皇軍 ②軍人に賜りたる勅諭 ③軍人精神の真髓 ④軍人精神と国民道徳 ⑤軍人精神の涵養 ⑥時代の推移と軍人精神 ⑦軍務を奉じての軍人 ⑧社会に仕へての軍人 ⑨軍備は拳国之れを負ふて立つ ⑩軍人精神高揚の秋

(ホ) 荒木貞夫 興隆日本の態度

昭和10 (当館所蔵なし)

(ヘ) 荒木貞夫 国防の基礎

川越市 国本社川越支部

昭和4 12p (579-292)

昭和4年1月27日国本社川越支部講演会で行なった講演の筆記。荒木の国防観がいくつかのたとえ話を引用しつつ平易に、かつ簡潔に現われている。

(ト) 内田康哉, 荒木貞夫共著 非常時教本

趣味の教育普及会 昭和8 100p

(625-376)

齊藤内閣の外相、陸相である内田と荒木が、成人教育用に執筆したもののだが、それぞれの執筆分担は判明しない。

(チ) 荒木貞夫 日本青年の道

三笠書房 昭和12 305p (725-174)

青年を対象とした短文の訓話的随想を集めたもの。荒木の戦争観については(3-へ)とほとんど変りないが、83~128pで戦争を扱う。

(リ) 荒木貞夫 身を捨てよこそ一戦争と国民の覚悟

三笠書房 昭和12 225p (738-89)

章の排列等編集方法は異なるが、内容は上掲(3-チ)と同じもの。

(ス) 荒木貞夫 日華事変突入まで

(「別冊・知性」第5-「秘められた昭和史」昭和31年12月所収88~95p)

(Z051.3-Ti1)

(シ) 荒木貞夫 動乱昭和に立つ天皇

(「特集・文芸春秋-天皇白書」昭和31年10月所収)

4. 極東国際軍事裁判記録類 (荒木貞夫関係)

(イ) 極東国際軍事裁判における荒木関係の記録の全体については、下記「目録及び索引」に先ず当らるべき。但し、当「目録及び索引」から利用しうる資料のうち、(4-ロ)の裁判速記録、証拠(証拠として却下されたものも含む)として提出された(5-イ、ロ)及び(3)の一部以外の資料は、当館に所蔵されていない。

い。

朝日新聞調査研究室編刊 極東国際軍事裁判 記録及び索引 昭和28

(329.49-A839k)

先ず、257～258pの索引から、目録本体に示されている記録の番号を知り、その上で記録本体を利用する。

(ロ) 上記軍事裁判の速記録のうち、個人弁論、個人論告の部分は下記のとおり。

極東国際軍事裁判速記録(和文)

(329.49-Ky9953)

a) 個人弁論(荒木貞夫)、速記録

nos.268～272

このうち

b) 荒木貞夫口供書(Affidavit)、速記録 no.268 10～19p

c) 検察側個人最後論告(荒木貞夫)、速記録 no.377 88～97p

d) 弁護側個人最終弁論(荒木貞夫)、速記録 nos.402～405

5. 主な政治家・軍人の日記類に現われる荒木貞夫

(イ) 木戸孝一 木戸日記 上巻

東京大学出版会 昭和41 613p

(210.7-Kii28k)

133p, 140～141p, 163～167p, 294p, 302p, 390p, 418p, 470～471p

(ロ) 原田熊雄 西園寺公と政局 第1～8巻、別巻 9冊

岩波書店 昭和25～昭和31

(312.1-H221s)

いわゆる「原田日記」と呼ばれるもの。荒木への言及箇所については、以下の索引を利用されたい。

ローマ数字は巻、アラビア数字は頁を示す。

荒木貞夫 II 27, 85, 87. III 222-3, 275, 279, 283, 288, 336. IV 5,

106, 136, 154, 159, 167, 201, 207, 222-3, 291, 293, 296, 299-300, 313, 322, 324, 338, 342, 352, 385, 393-4, 397. V 103, 123, 129, 145, 213, 276-7. VI 66, 77, 83, 86-7, 109, 228, 254. VII 81-3, 142, 144, 355, 364

平沼の策動 II 7-8, 32

十月事件 II 102, 106-7, 305

在満機構改革問題 IV 61, 72, 75, 80-2・26事件 V 7, 12, 178. VI 23.

[陸相] II 161, 163-4, 171-2, 183,

191, 211, 218, 221, 224, 227, 229,

232, 236, 249, 253-4, 257, 264-5,

267-8, 271-3, 295-7, 308-9, 329-

30, 343, 351, 354, 356, 359-60,

368, 379, 381-2, 384-5, 388, 398,

406, 410, 423-4, 429-31. III 5, 29,

38-9, 45, 60, 69, 72, 76-7, 97,

105, 122-3, 138-40, 160-1, 170,

174-7, 188, 190, 194-5, 197, 199,

201, 209-10, 217-21, 232

上海事変勃発 II 201, 204, 206

5・15事件 II 290, 293, 302, 304.

III 114, 141

満鉄総裁後任問題 II 318-20, 322, 335, 367

日仏同盟論 II 389, 391

国策案 II 394, 398. III 241

国際連盟脱退 III 14, 26, 47

五相会議 III 142, 151, 153-4, 168

[文相] VI 334, VII 44, 47, 56, 77, 83,

145, 158, 286, 376

後継首相論 VII 244. VIII 16, 29, 33-6,

41, 46-7

(ノ) 宇垣一成 宇垣一成日記 1～3 3冊

(以下82頁へつづく)

し、不明の点を明確に記してほしい。
以上のような記録があると、回答作成上非常に参考になるばかりでなく、暗中模索することなく、時間の短縮となる。場合によっては、先に記したような点について折り返し問い合わせねばならず、時間のロスとなる。

11. まれにはあるが、大学図書館から次のような文書レファレンスの依頼がある。
「夜尿症に関する論文、書物、研究書をすべて紹介して下さい。」

当館としては、文献目録の作成はしていないわけではないが、上記のように一主題ではあるが雑誌、単行本等広範囲(日本語の文献だけか、外国の文献も必要なかも不明)にわたる文献目録の作成は、人手と時間を要し、他の業務に支障を及ぼすことがある。学生、研究者にとって文献目録の作成は研究の一部であると思われるので、当館はその作成の補助的な役割を果たすことにとどめたいと思う。

(さくま・のぶこ：一般参考課主査)

(72頁からつづく)

みすず書房 昭和43～昭和46

(312.1-U495u₂)

第2巻：宇垣の荒木陸相感想 821p、荒木の手腕に対する感想 842p 5・15事件後の荒木陸相留任に対する憂慮 848-9p 荒木の不決断に対する不満 852p 陸軍内軍紀破壊者としての荒木 910p 荒木の陸相辞任に対する感想 946p 国体明徴問題にかかわる荒木への批判 1034p 2・26事件の際の荒木について 1051p 上原元帥の荒木人脈養成への批判 1055p 2・26事件関係者処罰と荒木 1125p

第3巻：陸軍の脱線ぶりと荒木・真崎 1534p

6. 主な軍事史関係図書に現われる荒木貞夫

(i) 高宮太平 軍国太平記

酣燈社 昭和26 354p

(312.1-Ta344g)

荒木と真崎の黎明期 94～97p 十月事件と荒木との関係 125～133p 荒木の陸相時代 135～156p 2・26事件直後の軍事参議官会議における荒木の主張と役割 251～277p

(ii) 秦郁彦 軍ファシズム運動史

河出書房新社 昭和37 364, 13p

(210.73-H312g)

10月事件、5・15事件と荒木との関係 32～71p 荒木と皇道派の思想 72～82p

(iii) 高橋正衛 昭和の軍閥

中央公論社 昭和44

(AZ651-10)

168～195p